

## この本を読んだ

③

### 原田宗典著 『東京トホホ本舗』

ホルム創刊号、第二号とも執筆者の知識とセンスが光っていたこのコーナーですが、この辺りで少し「落ち」を、という編集者の配慮?からか、私にそのお役目が回って来ました。半ば、いえ殆ど押し付けられるようにして引き受けてはみたものの、心境は正に本の題名どおりトホホなものでした。「でもですねえ、ヒョイと辺りを見回せばこんなようなトホホ的状态に陥っている人って、けっこうあっちにもこっちにもいるんですよええーこれが……」というような口語体が、原田宗典氏のエッセーの手法で、既に読んだ方ならおわかりかと思いますが、そんな文体について引き込まれ、誰でも身に覚えのあるはずのトホホな体験と重ね合わせ同調し、あるいは優位に立って爆笑し、時には降りるはずのバス停を乗り越したり?もするわけです。

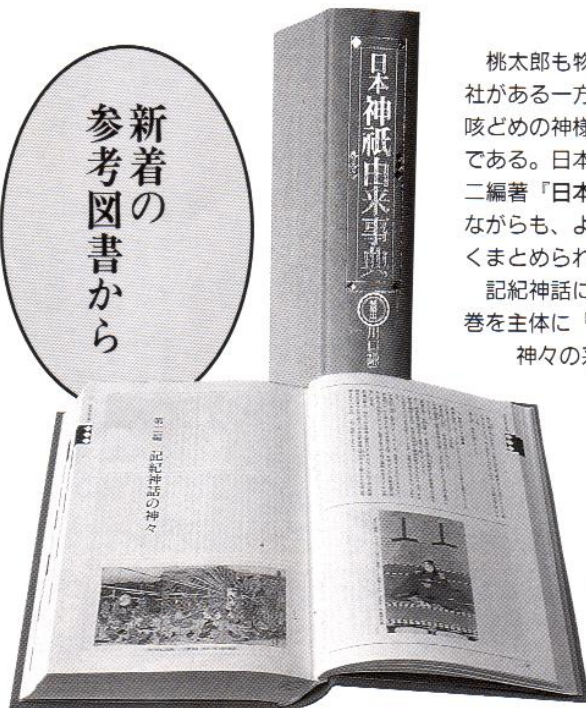
物の本によると、人が相手を受け入れるとき第一条件というのは優越感なのだそうです。原田氏のおもしろエッセーは正に読者を安心して優位



に立たせ、また怒りを静め悲しみをも癒す逸品ぞろいの本舗です。従って大変な繁盛ぶりですがその利用にあたっては注意が必要。

「公共の乗り物の中などで読んででは行けません。」このことは私も先輩読者のかたがたから堅く言い渡されていましたが、教えに従わなかったら最後、車中で冷たい視線にさらされるか、あるいはさっきバスで通り過ぎたはずの暗い夜道を一人とほとぼり引き返すはめになりますよ。まあそのおかげで私の拙い文章もこうして書き終えつつあるので、まあいいか。(辻みのり)

### 新着の 参考図書から



桃太郎も物臭太郎も神様になっている。金太郎神を祀る金時神社がある一方、大江山の酒願童子の首を祀った社もあるそうだ。咳どめの神様、歯痛の神様、酒造、漬物の神様、盗人の守護神まである。日本人に信仰されてきた神様は、本当に多様だ。川口謙二編著『日本神祇由来事典』(柏書房)には、日常の生活に密着しながらも、よく理解されていなかった神社、神様の由来が手際よくまとめられている。

記紀神話に登場する神々を扱った第2編では、『古事記』上・中巻を主体に『日本書記』巻一より巻十の応神天皇にいたるまでの神々の系譜、神話、神名の由来、別名などが説明され、小系図も付されている。付録の『系図一覧』とともに、記紀神話の世界の多くの神々とその複雑な縁故関係の理解には非常に役立つそうだ。

さて桃太郎は子供の成長、物臭太郎は長寿、金太郎は男の子のそれぞれ守護神、そして酒願童子の首の社は、脳の病の神様とある。予想には頭を使うためか競馬・競輪に凝る人々にも信仰されているそうだ。パラパラめくっていても面白い事典。

(池内みさを)